かみひこうき

Artist Collective Fuchu [ACF] かわら版

6号
2024年3月
発行

DESIGNER
杉浦一志（JISHAQMEN）
PUBLISHER
Artist Collective Fuchu [ACF]

特集「ハンドメイド界中盛り上がっている」

ドーナッ×人×地のつながり

「p.n.t.社別社業」

ACFのプロジェクト

ラジオ番組
おとのふね
Artist Collective Fuchu presents

アーティと府中に関わるゲストを招くラジオ番組

Artist Collective Fuchu[ACF]
かわら版かみひこうきについての詳細はこちらから！

ラグコルタ
-創造素材ラボ-

企業から提供いただいた部材を創造素材として新たに活かす仕組みづくり

まちけぜあーと

日常の暮らしの中に「自分らしい表現・発想」を見出す、新しい学びの場

nuu［ヌル］
- 自由な場所をスタートにて -

色んな価値観が混ざり合いメディアート自治コミュニティを つくるためのプロジェクト

Artist Collective Fuchu

【主催】 ARTS COUNCIL TOKYO
東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、NPO法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ（ACF）
（府中市市民活動センター フラッツ登録団体）050-6867-4662

Artist Collective Fuchu [ACF] は地域社会を担うNPOが東京都、アーツカウンシル東京と協働し、アートプロジェクトを実践する「東京アーティスト計画」として実施しています。社会に新たな価値観や人々の主体的な活動を生み出すための文化創造拠点をつくることを目指しています。

Artist Collective Fuchu[ACF] のプロジェクト紹介！

地域で表現活動をする人たちをアーカイブ。
ラジオ番組「おとのふね」

Artist Collective Fuchu presents「おとのふね」
毎月第１週の火曜日 22:00 ～ 22:30
コミュニティ FM 放送局ラジオフチューズ 87.4MHz にて放送
インターネット配信プラットホーム FM++(エフエムプラプラ)でも視聴できます。

毎月第一火曜日の夜 22 時から、コミュニティ FM ラジオフチューズ 87.4MHz で放送されているラジオ番組「Artist Collective Fuchu Presents『おとのふね』」。2019 年の10月に第１回が放送されてから、2024 年 2 月の放送で 53 回を迎えました。府中にまつわる面白い人やコトを見つけて紹介し、ラジオを通して地域で表現活動をする人たちとつながる番組です。毎回府中や近隣地域で活動するゲストを招き、アートや表現、創作のこと、府中のことなどお話を聞き、番組後半では府中のアート情報をお伝えしています。

放送も４年目を迎え、50 人を超えるゲストの方にご出演いただきました。過去の放送ではアーティスト、デザイナーをはじめ、書店店主、漫画家、市内企業の代表取締役、タウンコーディネーター、フォトグラファー、保育士、ラジオパーソナリティー、雑貨店店主、など多種多様な肩書きのゲストを招き、お話を聞きました。マニアックなトークあり、歌や楽器の生演奏あり、読み聞かせありと毎回ゲストの個性がギュッと詰まった番組になっています。最近では録音機材が揃い、屋外での収録も可能になりました。talk39 では府中トコロジストの西郷昌高さんと大國魂神社や妙光院を散歩しながら、神社やお寺にまつわる歴史について話す回となりました。

１回目の放送から約半年後にはコロナの感染が広がりはじめ、対面でのイベントが続々と中止になりました。そんななか「おとのふね」だけは月一回の放送を

続けてきました。53 回になった放送は、府中や近隣で表現活動をする人たちの記録でもあります。Podcast で過去の放送を聴くことができるので、気になるゲストの回をぜひお聴きください。今後は公開収録など、実際に顔を見せて集まるイベントの開催も考えています。最新回や Podcast の詳細は裏表紙の QR コードからご確認ください。

府中のファッションリテラシーを高めていきたい

株式会社 F.F.P.（エフエフピー）

左から橋口 世紀（はしぐち せいき）さん、宮﨑 太貴（みやざき たいき）さん、佐藤 拓也（さとう たくや）さん

RAFNIST（ラフニスト）

府中駅北口改札より徒歩 20 秒
府中市府中町 1-2-1 ぷらりと京王府中 西 2F 203 区画
https://rafnist.com/

ラッコルタ -創造素材ラボ-

ラッコルタにご提供いただいた素材

「ラッコルタ」は地元企業に不要な部材を提供していただき、それらを表現のための創造素材として新たに活かす仕組みづくりです。F.F.P. からは洋服の端材をご提供いただきました。

――今回は Artist Collective Fuchu のプロジェクト、ラッコルタ - 創造素材ラボ - に素材をご提供いただいている地域密着型のアパレルブランド「RAFNIST」（ラフニスト）を立ち上げた株式会社 F.F.P.（エフエフピー）の佐藤 拓也さん（以下佐藤）、橋口 世紀さん（以下橋口）、宮﨑 太貴（以下宮﨑）さんにお話を伺いました。株式会社 F.F.P.（以下 F.F.P.）の立ち上げから教えてください。

佐藤　勤めていた会社を退職したくて、次は何をしようかと考えていた時に、橋口と宮﨑2 人の顔が浮かびました。地元の友人のなかで一緒に仕事をするならこの 2 人だと思い声をかけたんです。

宮﨑　僕は服に興味があったわけではないのですが起業に興味があったので、声をかけられてすぐに仕事を辞めました。佐藤と橋口が、服が好きでブランドを立ち上げたいと話していたのをよく聞いていたので「3 人でやるならアパレルブランドがいいんじゃないか？」と提案し、F.F.P. を立ち上げることになりました。

佐藤　立ち上げ当初はブランド名も F.F.P. だったんです。でもなかなか覚えてもらえずコンセプトも伝わらないため、この場所に常設店舗をオープンするタイミングでブランド名を「RAFNIST」に変更しました。「RAFNIST」はラフ（rough）に着るという意味と笑う（laugh）の意味を込めた造語です。昔から服のリメイクをしていた橋口がデザイン、アパレルで販売員の経験がある僕が販売、宮﨑が経営を担当しています。実は 3 人とも服飾の学校は出ていません。

――2023 年 2 月 10 日に府中駅改札を出てすぐのこの場所で常設店舗がオープンしました。

佐藤　F.F.P. を立ち上げた当初は飲食店を間借りしたポップアップストアで営業をしていました。コロナの影響で飲食店での販売が難しくなり、軽トラの荷台をお店にしたモバイルハウス（移動販売車）での販売に切り替えました。その時に、偶然にもある企業の社長さんに声をかけて頂いて、府中駅近くの商業ビルの一角を借りての販売が決まります。そこで実績を作ることが出来たのですが、だんだんと新規のお客様がつかめなくなってきて。宮﨑に駅周辺を歩いて探してもらったら、この場所を見つけてきてくれました。

宮﨑　ここを管理している企業になんとか辿り着き、交渉してポップアップから始めさせてもらいました。契約期間の終了が近づいたときに、ダメもとで正式なテナント料を聞いてみたら払えない額ではなかったんです。

佐藤　この場所に移転してから、来店されるお客様の数が増えました。僕はお客様一人一人のお名前を覚えているのですが、それが大変になってきています。客層は幅広く 20 代から 50 代が中心で、78 歳の女性の常連さんもいらっしゃいます。購入した服をコーディネートして見せに来てくれて、会うたびに腰が伸びてどんどんかっこ良くなっていますね。

――新しい服はどのように作られるのですか？

宮﨑　過去の売り上げからどの時期にどの商品を出すかを決めた生産管理表を作ります。それをもとに週一回行う会議で橋口にどんな服が作りたいか、佐藤に売れるかどうか意見を聞き、何を制作するかを決めます。

橋口　デザインでは「かゆい所に手が届く」を心がけています。元々服をリメイクしていたのも、既製品の気に入らないところを直して自分が納得するものを着たかったからなんです。自分が着たい服を作っていても、佐藤が日本一の接客をするので売ってくれると信じていますね。

佐藤　橋口の作りたいものを売りたいと思っていますが、はじめての商品を販売するときは不安もあります。最近も PARAF PANTS（パラフパンツ）という柄のあるパンツの販売をはじめました。不安な気持ちはあったのですが僕の心配をよそに今までで一番完売が早い商品になりました。

――苦労したことはありますか？

橋口　3 人の意見が割れてバチバチにやり合うことがありますね。友達のときはお互いの譲れないところも問題にはならなかったのですが、仕事となるとそういうわけにはいかず、2 対 1 で意見が分かれると大変です。

佐藤　ただ根底にこの 2 人には嫌われたくないという気持ちがあるんです。一緒に仕事をはじめる前から毎日飲みに行っていたし、元々の仲の良さのレベルが高いんですね。最近では、例えば橋口が出来ていないことがあったとしても、それは橋口個人が悪いのではなく業務の仕組みに問題があると思えるようになりました。結局 3 人ともこの会社を良くしていきたいという気持ちは一緒なんです。

――これから府中でやっていきたいことを教えてください。

橋口　5 年先くらいの近い未来だと、府中のファッションリテラシーを高めていきたいと思っています。おしゃれな人、服が好きな人を増やしたいです。あと府中に特化したフリーペーパーを作りたいですね。衣装提供をして、ファッション、カルチャー、競馬、飲食店などの記事を掲載して府中で配りたいです。

佐藤　10 年 20 年先の未来としては、僕らを見てお店を始めた人たちを集めて、ファッションストリートを作れたらいいなと思います。そこに行けば何か面白いことがあるという場所にしたいですね。

文　田中麻子　撮影　高橋真美